

令和 5（2023）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

カサゴ九州北 福岡・佐賀海域

対象水域	九州北 福岡・佐賀海域	参画機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、福岡県水産海洋技術センター、佐賀県玄海水産振興センター
------	-------------	-------	--------------------------------------------------------

(1) 調査の概要

- ・機構は生物情報収集調査を実施
- ・各県は漁獲統計調査を実施
- ・本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

(2) データ収集状況

- ・機構では生物情報および資源評価に資する情報を収集中
- ・福岡県では2011年～2022年の主要1漁港における漁獲量（カサゴ類の合算数量）を収集済み
2023年以降の漁獲量を収集中
- ・佐賀県では2003年～2022年の主要1市場における漁獲量（カサゴ類の合算数量）を収集済み
2023年以降の漁獲量を収集中

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：日本では北海道から九州南岸の太平洋沿岸、北海道から九州南岸の日本海・東シナ海の沿岸、瀬戸内海、八丈島の岩礁域に生息（中坊編 2013）
生息域は潮干帯から水深 80m くらいまでの岩礁域や藻場
- (2) 年齢・成長：耳石不透明帯の観察結果より、最高 15 本の輪紋が確認されたことから本種の寿命は少なくとも 15 年と推定（林ら 1995）
成長は個体差、地域差が大きい、以下の成長式が報告済み
雄： $L_t = 188.05(1 - \exp(-0.511(t + 0.244)))$
雌： $L_t = 173.94(1 - \exp(-0.554(t + 0.255)))$ （横川ほか 1992、播磨灘）

雄： $L_t = 230.68 (1 - \exp (-0.286 (t + 0.717)))$
雌： $L_t = 179.18 (1 - \exp (-0.310 (t + 1.341)))$ （渡邊 2002、長崎県大瀬戸）
- (3) 成熟・産卵：本種は卵胎生でオスの成熟が進んだ秋以降に交尾し、メスの成熟が進んだ冬～春にかけて全長 4 mm 程度で産仔
九州北部海域における成熟については、雄が早いもので 8 月から、遅れて雌が 11 月から成熟（カサゴ放流技術開発研究会 1975、水江 1958、水江 1959）

(4) 被捕食関係：餌生物について地域による差はあまり見られず、エビ・カニ類等の甲殻類が中心だが、遊泳力の低い底着性のものを中心に多様なものを捕食しており、摂餌選択性の幅は広い（有菌ら 1978、横川ら 1992）
被食に関する情報は無いが、一般的に、より大型の魚類等からの被食が中心と推測

(4) 備考

・資源評価調査報告書については令和 4 年度に作成および公表済み
(https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_133.pdf)

(5) 引用文献

水江一弘（1958）カサゴの研究— I ，カサゴの精巣の季節的循環と精子形成について．長崎大水研報，5，27-29.
水江一弘（1959）カサゴの研究— V ，海産卵胎生硬骨魚類の卵巣の成熟及びその季節循環に関する研究．長崎大水研報，8，84-109.
カサゴ放流技術開発研究会（1975）カサゴ放流技術開発調査研究報告．瀬戸内海栽培漁業協会，神戸，144pp. 水江一弘（1958）カサゴの研究— I ，カサゴの精巣の季節的循環と精子形成について．長崎大水研報，5，27-29.
有菌真琴・松浦英喜・大内俊彦・道中和彦（1978）カサゴの標識技術開発に関する研究．山口外海水試研報，16，32-52.
横川浩治・井口政紀・山賀賢一（1992）播磨灘南部沿岸域におけるカサゴの年齢、成長、および肥満度．水産増殖，40（2），227-234.
林周・道津光生・太田雅隆（1995）耳石によるカサゴの年齢査定における横断面法と表面法の信頼性の比較．日水誌，61（1），1-5.
渡邊庄一（2002）長崎県大瀬戸地先および口之津地先におけるカサゴの年齢と成長について．長崎県水試研報，28，1-7.
中坊徹次（編）（2013）日本産魚類検索全種の同定第三版．東海大学出版会，2,530pp.